

平成23年文部科学省新年熟議 結果報告

文 部 科 学 省
予算監視・効率化特命チーム

～熟議のテーマ～

研究費の効果的・効率的な使用を一層促進するための方策について

【課題】

- ① 研究費の効率的な使用に関する知識・経験の共有や、組織間のニーズのマッチング、政策立案時の課題抽出等において、組織を超えたコミュニケーションが不足している
- ② 事務手続きが煩雑化し、研究者や研究機関の負荷が増えている
- ③ 会計制度による制約があり、研究開発の継続性に配慮した運用がなされていない

【提案】

<①関連>

- 組織を超えたコミュニケーション機会の増加(熟議やインターネットの活用等)
- 民間との連携促進による共同研究の活性化

<②関連>

- 研究を支える人材の質・量の充実(研究支援マイスター制度の導入等)
- 研究費使用ルールの統一化・簡素化

<③関連>

- 複数年度にわたる契約締結・予算執行の実現(基金化等)
- 上記のうち、特に独立行政法人の中期目標期間を超える場合においては、研究開発の継続性に配慮した制度改善(繰越基準の明確化、期間をまたぐ契約締結・予算執行の実現等)

<共通の提案>

- ハイリスク・ハイリターン研究を一定割合許容するシステムの構築(必要以上に細かい事務手続きなどを求めない)
- エビデンスに基づく説明・議論・政策立案